

世界史A

使用教科書	単位数	学年・学級・学科・選択名等
世界の歴史 改訂版 (山川出版社)	2	3年1、2組

1 学習の到達目標

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の世界がどのような過程を経て形成されたのかを、特に近現代に重きを置いて理解させ、世界的な考え方を学ぶことで、これからの国際社会における日本の在り方を考える。 ・ユーラシア地域を中心に形成された諸地域世界の地域的特徴をとらえながら、諸地域の交流による世界の一体化への理解を深め、今後の世界の動向と日本の関わりについても理解する。
---------	---

2 学習計画

学期	月	単元の学習内容	時数	単元のねらい	評価の観点				評価方法	
					①	②	③	④		
前期	4	オリエンテーション 人類の歴史のはじまり	2	・人類の登場と、農耕・牧畜による食料生産を基礎にして人類が文明を築き、歴史時代へ入っていくありさまを地域ごとに概観し、人間圏が形づくられていく過程を理解する。	○	○	○	○	・授業態度 ・授業導入時プリント ・授業プリント ・授業内容確認プリント	
	5	第1部 諸地域世界と交流圏 第1章 諸地域世界の特質	11	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア世界の特質に対する関心を高め、農耕社会と遊牧社会の特質と、中国の皇帝政治について理解する。 ・東アジアの国際関係にみられた冊封体制について理解し、その知識を身につける。 ・漢字・儒教・仏教・道教などに関する様々な資料を活用して東アジア世界の特質を理解するとともに、日本の文化とも関連づけて多角的に考える。 ・南アジア世界の多様な地域性について関心を高め、南アジアの民族・言語・宗教に関する様々な資料を活用して、その歴史的背景を理解する。 ・各宗教が南アジア世界に及ぼした影響について、具体的な事例をもとにして考える。 ・東南アジアにおける多様な社会・文化の形成について把握し、基本的知識を身につける。 ・西アジアで古くから文明が栄えた背景に関心を高め、オリエント・イラン文明について、日本への影響を考えながら、追究する。 ・ユダヤ教・キリスト教・イスラームに関する様々な資料を収集し、3つの宗教の相違点を理解する。 ・イスラーム世界拡大の背景について、多角的に考え、また、イスラーム世界が東西の文明や経済の交流に果たした役割について把握する。 	○	○	○	○	・授業態度 ・授業導入時プリント ・授業プリント ・授業内容確認プリント	
		①東アジア世界Ⅰ ②東アジア世界Ⅱ ③東アジア世界Ⅲ ④南アジア世界 ⑤東南アジア世界 ⑥西アジア世界Ⅰ ⑦西アジア世界Ⅱ			○	○	○	○	○	○
		前期中間考査							○	○
	6	⑧古代地中海世界 ⑨ヨーロッパ世界Ⅰ ⑩ヨーロッパ世界Ⅱ	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパの南北、東西の地域性について関心を高め、現在のヨーロッパを鑑みながら、その特質を理解する。 ・ギリシア・ローマ文明がヨーロッパ世界の形成に与えた影響について把握し、その知識を身につける。 ・キリスト教がヨーロッパ文明の基調となり、今日まで受け継がれていることを、思想・文学・日常の慣行や儀礼などの具体的事例をもとに考える。 ・封建社会の成立から王権の伸長までの西ヨーロッパ世界の変動を把握し、その知識を身につける。 	○	○	○	○	・授業態度 ・授業導入時プリント ・授業プリント ・授業内容確認プリント	
	7	第2部 一体化する世界 第1章 アジア諸帝国の繁栄	3	<ul style="list-style-type: none"> ・モンゴル帝国の興亡や明の政策と密接に関連しながら成長をとげた東アジア海域の交流圏について把握し、基本的知識を身につける。 ・16世紀から18世紀にかけてのアジア諸地域世界の社会や文化の特質について考える。 ・アジア諸帝国の政治と社会に関する資料を活用し、16～18世紀のアジア諸帝国の特質、ヨーロッパとの関係について意欲的に追究する。 ・明・清帝国と朝鮮・日本との関係、ムガル帝国 	○	○	○	○	・授業態度 ・授業導入時プリント ・授業プリント ・授業内容確認プリント	
	①明・清帝国の発展 ②サファヴィー朝とムガル帝国 ③オスマン帝国	○			○	○	○	○		

			・サファヴィー朝・オスマン帝国の動向に関する資料を活用し、基本的知識を身につける。					
	8	第2章 一体化の始まりとヨーロッパの主権国家 ①アメリカの征服と植民地化 ②ルネサンス ③宗教改革 ④絶対王政と議会王政 ⑤東ヨーロッパの専制 ⑥大西洋経済	3 ・大航海時代のヨーロッパとアメリカ大陸との接触・交流に関する資料を活用し、アメリカ大陸の先住民社会の変貌について理解する。 ・ルネサンスと宗教改革の特質を把握し、その歴史的背景について考える。 ・16世紀から18世紀にかけてのヨーロッパ諸国の動向と国際関係の推移を把握し、その知識を身につける。 ・世界の一体化とそれに伴うアフリカ・アメリカの変容について関心を高め、多角的に考える。 ・主権国家体制の成立と大西洋貿易の展開によるヨーロッパ社会の変容について理解し、その知識を身につける。	○	○	○	○	・授業態度 ・授業導入時プリント ・授業プリント ・授業内容確認プリント
		前期期末考査					○	・定期考査
	9	第3章 ヨーロッパ近代の確立 ①啓蒙とアメリカ独立 ②フランス革命 ③ナポレオンとその帝国 ④イギリス産業革命 ⑤ウィーン体制と自由主義改革 ⑥1848年とイギリス・フランス ⑦アメリカ合衆国の発展とカナダ	7 ・アメリカ独立革命・フランス革命・ラテンアメリカ諸国の独立の背景と影響について関心を高め、意欲的に追究する。 ・アメリカ独立革命、フランス革命、ラテンアメリカ諸国の独立が果たした歴史的意義について考え、関連する資料を活用して基本的知識を身につける。 ・アメリカ独立革命、フランス革命、ラテンアメリカ諸国の独立が相互に関連をもちながら起こったことを理解する。 ・産業革命の背景とその影響について関心を高め、意欲的に追究する。 ・産業革命が果たした歴史的意義について、関連する資料を活用して考え、基本的知識を身につける。 ・ウィーン体制下での自由主義・ナショナリズムの運動について意欲的に追究し、その歴史的意義を考える。 ・ナショナリズムの高まりがドイツ、イタリアでの国民国家形成の原動力となったことを理解し、国民国家形成までの過程を把握する。 ・西部開拓と先住民・黒人への抑圧、移民の流入についての資料を活用し、アメリカの国民形成の独自性について理解する。	○	○	○	○	・授業態度 ・授業導入時プリント ・授業プリント ・授業内容確認プリント
		第4章 アジア諸国の変貌と日本 ①19世紀の西アジア ②南アジア・東南アジアの植民地化 ③東アジアと列強	・ヨーロッパを中心とするアジアでの国際分業体制の形成について、近代世界システム論の視点から追究し、19世紀の世界の一体化とその特質を考える。 ・ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、その中で日本の対応に関する資料を活用し、アジア諸国の内部で進行していた変化とヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌について考える。 ・日本の明治維新とその後の近代化の動きがアジア諸国に与えた影響について考え、その知識を身につける。	○	○	○	○	・授業態度 ・授業導入時プリント ・授業プリント ・授業内容確認プリント
	10	第5章 帝国主義時代 ①分割を通じて進む世界の一体化 ②帝国主義の国際対立 ③植民地・従属国での民衆の抵抗 ④日露戦争と韓国併合 ⑤辛亥革命	6 ・帝国主義列強の世界政策によって世界がどのように変容したか、意欲的に追究する。 ・帝国主義列強の植民地支配について、民族・国境など現在まで残る問題と関連づけて考え、理解する。 ・帝国主義列強の植民地支配、それに対する反帝国主義植民地運動の高まりや近代化の動きについての資料を活用し、帝国主義列強の侵略にさらされたアジア・アフリカの変貌と諸民族の民族的覚醒について考える。 ・19世紀末から20世紀初頭にかけての社会の急激な変化についての資料を活用し、現代の社会と関連づけながら考える。	○	○	○	○	・授業態度 ・授業導入時プリント ・授業プリント ・授業内容確認プリント

後期			・19世紀末から20世紀初頭にかけての欧米諸国や日本などに見られた社会の急激な変化を意欲的に追究し、現代社会の原型が成立したことを理解する。	○		○		
	11	第3部 現代世界と日本 第2章 二つの世界大戦と平和 ①第一次世界大戦 ②ロシア革命 ③ヴェルサイユ・ワシントン体制 ④1920年代のアメリカとヨーロッパ	5 ・第一次世界大戦の原因について、これまでに学習したことと関連づけて、意欲的に追究する。 ・第一次世界大戦についての資料を活用し、第一次世界大戦の性格と第一次世界大戦がもたらした世界の変化について考え、理解する。 ・ロシア革命とソ連の成立について、政治的・経済的・思想的影響について考える。 ・国際連盟やヴェルサイユ・ワシントン体制の理念と現実、アジア諸国の民族運動について理解し、国際社会の枠組みの変化について把握する。 ・第一次世界大戦後の世界の変化について、第二次世界大戦へとつながった問題点を含め、多角的に考える。	○	○	○	・授業態度 ・授業導入時プリント ・授業プリント ・授業内容確認プリント	
	後期中間考査						○	・定期考査
	12	⑤世界恐慌 ⑥ファシズムの台頭 ⑦第二次世界大戦前夜の世界 ⑧第二次世界大戦Ⅰ ⑨第二次世界大戦Ⅱ	7 ・世界恐慌からファシズムの台頭、第二次世界大戦に至るまでの過程を互に関連づけながら、意欲的に追究する。 ・世界恐慌の原因と影響、各国の恐慌対策、ファシズム台頭の背景と経過についての資料を活用し、第二次世界大戦の原因を考える。 ・第二次世界大戦の性格と、その過程で生じた米ソ冷戦の芽や原爆使用の意味について理解し、その知識を身につける。	○	○	○	○	・授業態度 ・授業導入時プリント ・授業プリント ・授業内容確認プリント
1	学年末考査					○	・定期考査	

3 評価等について

項目	①関心・意欲・態度	②思考・判断	③資料の活用技能・表現	④知識・理解
内容	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究する。	近現代史を中心とする世界の歴史について、自らが考えた過程や結果を適切に考え、判断する能力を身につけている。	近現代史を中心とする世界の歴史についての資料を活用し、歴史的事象を追究する方法を身につけ、考えた過程や結果を適切に表現する。	近現代史を中心とする世界の形成の歴史的過程についての基本的事項、文化の地域的特色を理解し、身につけている。
割合	20%(点)	10%(点)	10%(点)	60%(点)

4 履修にあたっての注意事項

- (1) 定期考査
 - (2) 提出物への取り組み状況、完成度
 - (3) 授業の取り組み（授業態度、学習活動への参加状況、服装など）
- などから総合的に評価する。
- また、毎時間の授業を大切にし、意欲的に取り組むこと。
- これらの事項を守れない場合には、未履修となることがあるので注意すること。

評価について

評価	評価点
10	100 ~ 93
9	92 ~ 85
8	84 ~ 77
7	76 ~ 70
6	69 ~ 61
5	60 ~ 53
4	52 ~ 45
3	44 ~ 38
2	37 ~ 30
1	29 ~ 0

学年末評定について

評価	評価点
5	100 ~ 85
4	84 ~ 70
3	69 ~ 45
2	44 ~ 30
1	29 ~ 0